

STAGE+を楽しむ(220)(HP 収載)
—アリス=紗良・オットのリストの《死の舞踏》—

1. 始めに

前報(219)に引き続き、STAGE+のアリス=紗良・オットのリストの《死の舞踏》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のアリス=紗良・オットがリストの《死の舞踏》でパッパーノと共演の演奏を選びました。

収録日: 2023年10月5日

本映像では、アントニオ・パッパーノがロンドン交響楽団の首席指揮者に指名されて以降、最初となったコンサートの模様が収められています。メインに据えたのはリヒャルト・シュトラウスの《ツァラトゥストラはかく語りき》。曲の始まりを告げる印象的なファンファーレは、新時代の日の出を象徴しているとも言えるでしょう。演奏会の前半では、アリス=紗良・オットとの共演によるリストの珍しい協奏的作品と、英国で最も話題を集める若手作曲家による新作が演奏され、パッパーノの思い入れが詰まったプログラムを彩っています。

ソリスト:

アリス=紗良・オット (ピアノ)

演奏:

ロンドン交響楽団

指揮:

アントニオ・パッパーノ

曲目:

ハンナ・ケンドール 《O Flower of Fire》

フランツ・リスト 《死の舞踏》 S. 525

エリック・サティ 《グノシエンヌ》 第3番

リヒャルト・シュトラウス 《ツァラトゥストラはかく語りき》 op. 30



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。ケンドールの《O Flower of Fire》は、現代曲で、打楽器や弦楽器の一風変わった奏法で不思議な感覚をもたらします。

リストの《死の舞踏》は、アリス=紗良・オットの切れの良いタッチで、曲名のとおりおどろおどろしい表情が展開されます。

サティの《グノシエンヌ》第3番は、アンコール曲で、小音量で奏でる詩情に富んだ小品です。

リヒャルト・シュトラウスの《ツァラトゥストラはかく語りき》は、オルガンの持続音から始まるお馴染みの曲です。哲学的瞑想のような表情から、軽やかな表情、そしてダイナミックな表情まで、パッパーノのスケールの大きな指揮の下、展開していきます。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結した結果、現代曲から、切れのよいリストのピアノ曲、そしてスケールの大きいツァラトゥストラまで、緻密な再現がなされています。

以上